

ISSN 2186 – 3989

初級中国語教育におけるインタビュー活動の試み

伊伏 啓子、村田 和弘、趙 煒宏、王 又民、
厲 堅、渡邊 彩奈、陳 万飛

An Application of Interview Activities to Primary Chinese Language Teaching.

Keiko Ibushi, Kazuhiro Murata, Weihong Zhao, Youming Wang,
Jian Li, Ayana Watanabe and Wanfei Chen

北 陸 大 学 紀 要
第48号(2020年3月)抜刷

初級中国語教育におけるインタビュー活動の試み

伊伏 啓子*、村田 和弘*、趙 煒宏**、王 又民**、
厲 堅**、渡邊 彩奈***、陳 万飛***

An Application of Interview Activities to Primary Chinese Language Teaching.

Keiko Ibushi*, Kazuhiro Murata*, Weihong Zhao**, Youming Wang**, Jian Li**, Ayana Watanabe*** and Wanfei Chen***

Received November 1, 2019

Abstract

This paper reports the interview activities conducted in the Chinese language course of international communication department. From the comment on the report, it was found that the interview activity was effective for the beginner level Chinese learner to increase learning motivation. Moreover, the interview activity became an opportunity to deepen the exchange with Chinese students, and the Japanese student received various stimuli from the Chinese students.

Key word : Interview activity, Primary Chinese Teaching, Chinese International Students

はじめに

2018 年度の訪日外国人数は 3000 万人を超えた。この数は 2015 年度の訪日外国人数の三倍に上り、日本を訪れる外国人がこの数年で大幅に増加していることがわかる。JTB 総合研究所の調査によると、2018 年度の訪日外国人数の上位は、中国 838 万人 (26.9%)、韓国 753 万人 (24.2%)、台湾 475 万人 (15.3%)、香港 220 万人 (7.1%) であり、中国語圏からの訪日者が全体の 66% をしめる。また、石川県の調査によると、2018 年の石川県外国人宿泊者数は 68 万人、その内訳は台湾からの宿泊者が最も多く 17 万 5 千人余り (25%)、次に香港 6 万 6654 人 (9%)、中国 6 万 6476 人 (9%) と続き、45% が中国語

*北陸大学国際コミュニケーション学部 Faculty of International Communication, Hokuriku University

**北陸大学国際交流センター、北陸大学孔子学院 International Exchange Center・Confucius Institute, Hokuriku University

***北陸大学学外講師 Faculty Extramural Lecture, Hokuriku University

圏からの来訪者である。さらに、日本国内の留学生数を見ても、中国からの留学生が依然として最も多く、全体の4割近くをしめている。

このように、日本を訪れる中国語話者は非常に多く、金沢においても、駅や観光地、街中で頻繁に中国語話者とすれ違い、中国語を耳にする。そして、本学においても同世代の中国人留学生と一緒に授業を受け、交流の機会を持つことが可能である¹。数多くの中国語話者が身近にいる環境は、中国語学修者にとって非常に良い環境であるが、現状ではこの環境が十分に活かされていない。

こうした状況を背景に本学国際コミュニケーション学部では、1年生中国語必修科目において、中国語話者に中国語でインタビューを行うという課題を始めた。通常、外国語教育で行われるインタビュー活動は、中級や上級レベルの学修者が、教室外で母語話者と接触し、インタビューを行う活動として取り入れられることが多い。しかし、初級レベルであっても、授業で学んだことを実際に運用することにより、学修者の学修意欲を高めることができると考える。また、インタビュー活動を通して本学の中国人留学生や身近にいる中国語話者と交流を深めるきっかけを作ってほしいという目的があった。本稿は本学国際コミュニケーション学部1年生が中国語学修1年目に取り組んだインタビュー活動の実践報告である。

1 北陸大学国際コミュニケーション学部の中国語教育について

本学では2017年度に国際コミュニケーション学部が設立され、1年次の外国語教育は英語と中国語の二言語を必修とするカリキュラムになった。1年次の中国語科目は3科目、週4コマが設けられている（前期：「中国語Ⅰ」（週2）・「中国語Ⅲ」（週1）・「中国語会話Ⅰ」（週1）、後期：「中国語Ⅱ」（週2）・「中国語Ⅳ」（週1）・「中国語会話Ⅱ」（週1））。約80名の学生をa、b、c、dの4クラスに分け、1クラス約20名で授業を行なっている。

「中国語Ⅰ・Ⅱ」は主に日本人教師が授業を行い、「中国語Ⅲ・Ⅳ」と「中国語会話Ⅰ・Ⅱ」はネイティブ教師が担当する。1クラスに3名から4名の教員が関わることになるため、毎月一回、授業担当者全員が参加する打ち合わせを行い、授業の進捗や学生の様子などを共有し、授業を進めている。2年次になると、学生は英語と中国語のどちらかを第一外国語として選択する。そして、第一外国語は週6コマ、第二外国語は週2コマとなり、希望者は二言語を継続して学修する²。中国語を第一外国語にした学生は、2年次後期から中国の姉妹校5校を中心に留学する。期間は、半年、1年間、2年間（2+2プログラム）から選ぶことができる。2018年度、2019年度は中国語を第一外国語とした学生の9割が長期留学を行っている。

国際コミュニケーション学部1年次の中国語教育に関するスケジュールを以下に示す。

・前期

6月 確認試験（筆記「中国語Ⅰ」）

7月 留学生との交流会、インタビュー活動

8月 定期試験（筆記「中国語Ⅰ」、「中国語Ⅲ」 口頭「中国語会話Ⅰ」）

・後期

11月 確認試験（筆記「中国語Ⅱ」）

12月～1月

中国語スピーチ発表会、留学生との交流会、インタビュー活動、
HSK（汉语水平考試）受験

2月 定期試験（筆記「中国語Ⅱ」 口頭「中国語会話Ⅱ」）³

本稿で報告するインタビュー活動は必修科目「中国語Ⅰ」と「中国語Ⅱ」の中で課題として行ったものである。

2 インタビュー活動の概要

インタビュー活動は「中国語Ⅰ」と「中国語Ⅱ」の授業の後半、第8週以降に行っている。活動の内容は、(1)事前準備、(2)練習、(3)インタビュー活動、(4)レポート作成の4つの段階に分けられる。

(1)事前準備

簡単な自己紹介文を中国語で作成する。

既習文法を用いて10前後の疑問文（質問）を作成する。

「中国語Ⅰ・Ⅱ」では『1冊めの中国語（講読クラス）』（白水社）⁴を教科書として使用しており（2017年度～2019年度）、事前準備を行う際、それまでに学修した文法項目を整理したプリントを作成して学生に配布している（付録1,2）。

(2)練習

「中国語Ⅰ・Ⅱ」の授業に中国人留学生に参加してもらい、インタビューの練習を行う。発音の矯正、質問の修正を行う。

(3)インタビュー活動

授業外で三人以上の中国語話者にインタビューする。

(4)レポート作成

インタビューした内容をもとに中国語で短い文章を作成し、インタビュー活動の感想を日本語で書く（付録3）。活動レポートは「中国語Ⅰ・Ⅱ」の最終成績に含まれることを学生に周知させ、定期試験日までに担当教員に提出する。

中国語インタビュー活動の取り組みは2016年度にまず一回目を行った。2016年度は未来創造学部教養学科1年生選択科目「はじめての中国語会話Ⅰ・Ⅱ」（受講数：前期33名、後期11名）の中で前後期各1回行い、学生から「楽しく取り組めた」との声があった⁵。そして、2017年度より国際コミュニケーション学部1年生全体でこの課題に取り組んでいる。

3 2018年度の実施内容

以下、2018年度の具体的な取り組みについて報告する。

3.1 前期

6月8日に「中国語Ⅰ」の確認試験が終了したのち、各クラスで事前準備を始め、7月はじめに本学別科に在籍する留学生とインタビューの練習を行った。

7月2日（月）2限

「中国語Ⅰ」bクラス 場所：322教室

「中国語Ⅰ」dクラス 場所：323教室

中国語 SA4名と本学別科 18名の学生（中国人留学生）がボランティアとして授業に参加した。日本人は4人グループを作り、そこに2人の留学生が入りグループ活動を行った。教員は学生の様子を見ながら、10～15分でメンバーを交代させ、すべての留学生と会話練習ができるように調整した。

7月6日（金）2限

「中国語Ⅰ」aクラス 場所：mogumogu

「中国語Ⅰ」cクラス 場所：国際交流ラウンジ

本学別科のBクラス（15名）、Cクラス（18名）と交流会を行った。90分を日本語の時間と中国語の時間の二つに分け、指示した言語で会話を行うよう最初に説明する。日本人学生2人と留学生1～2人のグループを作り、メンバーを10分ごとに変更させる。別科学生は9割が中国人留学生であるが、非中国語圏の留学生とは英語或いは日本語で会話をするように指示をした。また、日本人学生の中国語力より、別科学生の日本語力が高いため、会話が日本語に偏る場面が見られたが、中国語の時間は絵や漢字を書きながらできるだけ中国語で会話をするよう促した。

交流会終了後、新たに3名以上の中国語話者にインタビューしてレポートを作成することを指示し、7月31日の定期試験当日までに活動報告レポートを提出させた。

3.2 後期

11月19日に「中国語Ⅱ」の確認試験を行い、その後インタビュー活動の事前準備を各自で行うようクラスで指導した。そして、12月に本学別科クラスと交流会を行い、インタビューの練習を行った。

12月10日（月）2限

「中国語Ⅱ」bクラス 場所：mogumogu

「中国語Ⅱ」dクラス 場所：国際交流ラウンジ

12月14日（金）2限

「中国語Ⅱ」aクラス 場所：国際交流ラウンジ

「中国語Ⅱ」cクラス 場所：mogumogu

後期はすべてのクラスが別科クラスと交流会を行いインタビューの練習を行った。方法は前期のa、cクラスと同じである。交流会の後に、自らインタビューの相手を探し3人の中国語話者にインタビューするよう指示した。そして、2月1日の定期試験終了日までに活動報告レポートを担当教員に提出させた。

3.3 感想コメント

付録3にあるように、活動レポートはインタビューした内容を中国語で作文する部分と日本語で感想を述べる部分に分かれている。ここでは、学生が日本語で書いた感想を整理する。(aクラス21名、bクラス20名のレポートより)

前期の感想で最も多く見られたコメントは、中国人留学生が優しくインタビューに応じてくれたことを喜ぶものであった。例えば、

- ・たった4ヶ月ほど勉強しただけではなかなか聞き取るのも自分の言いたいこともうまく表現するのが難しくとてももどかしかったです。しかし、インタビューした人は皆優しく、もう一度言って欲しいとお願いしたり、わからないから書いて欲しいとお願いしたら快くしてくれる方ばかりで中国人は温かい人が多いと感じました。
- ・国際交流センターにいた留学生にインタビューして、友達でもないのに快く引き受けてくれて嬉しかったです。
- ・インタビューの始めから終わりまでとても優しい方で、私の曖昧な中国語の発音でも理解してくれようとしてくれました。
- ・中国人に自分の中国語を話すのが少し緊張しました。だけど、しっかり聞き取ってくれて、質問に対してよく考えてくれたので、嬉しかったです。
- ・別科の人たちと交流したときにも思ったけど、中国の人たちはこちらが質問するとなんでも丁寧に答えてくれて優しいなと感じました。
- ・私の中国語が伝わるか心配だったけど、理解してくれようとしてくれて、答えもゆっくり言ってくれたりしてとても嬉しかったです。
- ・中国人留学生の方々にはわたしのつたない中国語をしっかり聞いてくれました。
- ・中国人は優しい人が多かった。
- ・インタビューも快く受け入れてくれてうれしかった。これからも交流を深めていきたいです。

また、自分の中国語が伝わったことの喜びを記すコメントも多く見られた。例えば、

- ・自分の中国語が通じたり、相手が中国語で何を言っているかわかるととても嬉しかった。
- ・まだまだ自分の発音や質問の内容は全然レベルが高くないけど、中国語をしゃべってみて、中国人の方に伝わっているということが少し嬉しかった。
- ・中国人留学生と交流してみて、意外と私の中国語でも伝わるんだなあと思って嬉しかったです。
- ・実際に会話が成り立ったことで少しだけ自信ができました。
- ・まだ中国語を習って間もないけど、質問をしたらちゃんと伝わって答えてくれました。
- ・伝わらないこともあったけれど、自分の言ったことが伝わったり、留学生の方が言った答えが理解できた時はとても嬉しかったです
- ・自分の言いたいこと、伝えたいことがうまく伝わった時はとてもうれしかったです。でもせっかく答えてもらっても知らない単語だとわからなかったので、単語をたくさん覚えようと思いました。

さらに、インタビュー活動を通して自分の中国語力を知り、学修意欲が増したというコメントも多く見られた。

- ・このインタビュー活動を通して、中国人との会話をもっとスムーズに行うために、語彙を増やすことと発音の練習が必要だと感じた。
- ・自分の中国語の発音の悪さを痛感した。もっと発音の練習をしようと思った。
- ・話したいことがあってもなんて言えばいいのかわからず、もどかしかったです。これからちゃんと単語やピンイン文法を理解してもっと会話できるようになりたいです。
- ・インタビュー活動で今の自分の中国語力が分かったと思います。
- ・こちらの中国語が伝わるかとても心配でしたが、全てとは行かずとも伝わったようでよかったなと思いました。もっと色々伝えられるようもっと勉強しようと思いました。
- ・今回、練習を含めるとたくさんの中国の方と話す機会をもらいました。しかしそこで自分の発音の未熟さを痛感しました。それに加えまだまだ勉強の足りなさも確認できました。また、中国の方の日本語の上手さも知ることができてとても良い経験でした。
- ・中国語で答えてもらっても聞くだけでは何が言いたいのが理解できなかった。でも、簡体字を書いてもらったら自分の習った単語だったことがあったので、リスニング能力を養わなければならないと感じた。

後期は、前期より自分の中国語のレベルが上がっていることを実感したというコメントが多数見られた。

- ・今回のインタビューで前期よりも中国語を聞けるようになったと実感した。
- ・前回インタビュー活動を行った時よりも、中国語が聞き取れるようになったと思う。
- ・前期にインタビュー活動した時よりも詳しいことが聞けるようになったと思った。後期で学んだことでこんなにもコミュニケーションが取れるんだなーと思った。英語に加えて中国語もこんな風に少しでも話せるようになりとても嬉しい。
- ・前期に比べて、今回行ったインタビュー活動ではより中国語を話せたと思います。インタビューした時、自分の中国語でも伝わっていることが実感できてよかったです。
- ・インタビューしていても、中国語の文法や語彙の知識が前期より増えたなと感じた。話の内容がもっと濃くなりインタビューがとても楽しかった。
- ・前期にした時より、自分の中国語が通じるようになったと感じた。今まで一つの質問をした後、会話が続き次の質問をしていたが、今回は具体的な「いつから」「何を」など聞けるようになった。漢字を書いてもらわないと聞いただけではわからなかった単語が、聞いたらわかるようになったのがとても嬉しかった。
- ・前期に比べると様々な表現が使えるようになったと感じました。いろいろな単語や文法が使えるようになると会話も楽しく感じました。
- ・前期のインタビューよりたくさんのことを聞いて嬉しかった。留学生の答えも難しいのもあったけど、頑張って聞き取った答えも理解できたのが嬉しかった。前期よりも発音がよくなったり、たくさん質問できたり、自分の成長が感じられた。
- ・今回のインタビュー活動を行って、前回よりも確実に自分の中国語能力は身につけているなと思いました。話すだけでなく、聞いて理解すること、また聞いた後に質問を考えて聞くことができました。
- ・中国語で様々な質問ができた。最初の頃と比べて発音がとてもうまくなった。前回のインタビュー活動の時よりもさらに多くのことを聞けるようになっていたため中国語がうまくなったと実感した。
- ・前期のインタビューの時よりも聞けることが多くなったと思ったし、前よりも中国語を理解できるようになって嬉しかったです。

前後期両方の感想から、インタビュー活動を通して留学生から刺激を受けたというコメントも数多く見られた。

- ・3人の留学生に聞いたけれど全員日本語が上手で私も4年生までに英語や中国語をペラペラ話せるようになりたいです。
- ・留学生がとても日本語を話すのが上手い。自分がまだ中国語があまり話せないのは情けないのもっと話せるようになりたい。
- ・中国人留学生が日本語を話しているのはすごいと思います。私たち日本人は中国語を話せないで、努力しているんだなと感じました。私も頑張ろうと思います。
- ・中国人が日本語を頑張っているの、私も中国語を頑張ろうと思いました。
- ・大学院に行きたいという人が多くて驚きました。
- ・留学生を見ると、自分も留学頑張ろうと思えた。

4 まとめと今後の課題

前掲の「3.3 感想コメント」から、初級レベルの中国語学修者にとってもインタビュー活動は効果があり、インタビュー活動を通して学修者の中国語の学修意欲を高めることができたと判断することができる。そして、本学留学生と交流を深めるきっかけを作るという目的は概ね達成されたといつてよいだろう。また、今回の活動が中国語学修に限らず、他の学修や2年次以降の留学にもつながる刺激となったことは予想を超える効果であった。

別科学生との交流会では、通常の授業で発話の少ない学生が積極的に交流を行う姿が見られ、同世代の学生同士の交流が学修に良い影響をもたらすことを実感した。しかし、以下のような課題も残る。

- 1) インタビュー内容を中国語で作文することを求めているが、1年次の授業では作文指導を行っていない。授業時間を用いて、簡単な説明をする必要がある。
- 2) インタビュー活動を通して、自分の発音が正しくないことを知る学生が少なくない。通常の授業において、発音指導をさらに強化する必要がある。
- 3) 毎回、同級生である国際コミュニケーション学部1年生の中国人留学生にインタビューが集中してしまう。活動レポートの提出を義務付けているため、単位取得のために課題を行うという姿勢の学生がいることも否めない。
- 4) 現在は実際に活動を行うことに重きを置いている。今後は、提出された活動レポートのフィードバックの方法、また活動そのものをどのように評価するかということも考えていかなければならない。

おわりに

学生の書いた後期終了後の学習アンケートには「実際に中国人留学生と交流することができたのはとても貴重な経験になった。」との声があった。ここに、インタビュー活動を通して得た経験を記した、二人の学生のコメントを紹介する。

「今回のインタビュー活動で新しい中国人の方と話すことができたし、これまで仲の良かった中国人の友達のことにもさらに知ることができたので、新しい言語を習得することの大切さや面白さを実感できた。」

「今回のインタビュー活動を行ってみて自分の中国語の発音・単語力を増やさなくてはならないと思いました。心に残ったことが二つあります。一つ目は自分がわからなくて止まってしまった時、助けてくれる学生が多かったことです。自分がわからなくなった時、日本語で聞いてくれたり、同じ意味の単語の日本語を言ってくれて嬉しかったです。留学生の方はきっとたくさん勉強して日本語を身につけているのだなと思いました。二つ目は優しい人が多いということです。「質問してもいいですか」という一言だけで相手にしてくれました。そしてとても優しく丁寧に答えてくださいました。このインタビュー活動を通して自分の中国語が通じると学んだだけでなくその他の大きなことを学んだ気がします。このことを忘れずにこれからも勉強していきたいと思います。今後は留学生の方が困っているときに自分が助けられるようになりたいです。」

インタビュー活動が学習者の意欲向上に繋がり、さらに異文化交流、異文化理解へと進む糸口となることが期待されることがわかるが、これを中国語教育の段階に位置付けると、cefr でいうところの A1 から A2 への橋渡しの役割を担うともいえる。すなわち、「自分ことが紹介できる」段階 (A1) を踏まえて、「相手の基本的情報を引き出すことができる」段階 (A2) の活動を学修者に課していることになるからである。この段階を1年次で経験することによって、学修者は2年次以降、B 段階の、いわゆる自立学修者として、レベルアップを図ることができるようになる。また、インタビュー活動に先んじて、夏休みの中国研修での体験も、この A 段階を先取りし、後期の中国語スピーチ発表会は A1 の「自分の事を紹介できる」ことの確認を行っているともいえる。こうした諸活動のキーとしてインタビュー活動を位置づけ、前期と後期の両方で実施し、前期のリベンジを後期で果たすよう仕向けることで、初年時における中国語学修を立体的かつ段階的なものにすることが可能となるのではないだろうか。今回課題となった点を改良しながら、今後もこの活動を続けていきたい。

交流会の開催にご協力くださった本学別科の佐々木枝好准教授をはじめ、多くの先生方、留学生に深く感謝いたします。

注

- 1 本学は経済経営学部とコミュニケーション学部 (2018 年度まで「未来創造学部」) において 2+2 プログラム (ダブルディグリー制度) を用いた中国人留学生を数多く受け入れており、留学生別科の学生も含めると、太陽が丘キャンパスでは在学生の約 2 割が中国人留学生である。(2018~2019 年の学生数)
- 2 その他、選択科目としてフランス語、ドイツ語、スペイン語、朝鮮語の外国語科目 (週 1 コマ) がある。
- 3 上記で示したスケジュールの他に、1 年生の希望者は夏季休暇中、3 週間の中国研修に参加することができる。また、学期中は授業のほかに週一回「中国語サポートクラス」が行われ、中国語 SA (スチューデント・アシスタント) と授業外学修を行うことができる。
- 4 「中国語会話 I・II」では『1 冊めの中国語 (会話クラス)』(白水社) を教科書として使用している。
- 5 2016 年度前期は、クラスの日本人同士で事前練習を行った。後期は本学横田隆志准教授のゼミに所属する中国人留学生に授業に入ってもらい事前練習を行った。

参考文献・参考サイト

岡崎敏雄・岡崎晔 1990『日本語教育におけるコミュニカティブ・アプローチ』凡人社
 戸坂 弥寿美・寺嶋 弘道・井上 佳子・高尾 まり子 2016「学外での日本語母語話者への
 インタビュー活動に関する一考察：—学修者の不安とその変化を中心に—」『日本語教
 育』164, pp79-93, 日本語教育学会
 劉穎・喜多山幸子・松田かの子 2008『1冊めの中国語（会話クラス）』白水社
 劉穎・喜多山幸子・松田かの子 2008『1冊めの中国語（講読クラス）』白水社

インバウンド訪日外国人動向（JTB 総合研究所）

<https://www.tourism.jp/tourismdatabase/stats/inbound/>（訪日外国人動向 2019）

「H30年観光入り込み状況について」（石川県観光戦略推進部観光企画課）

<https://www.pref.ishikawa.lg.jp/kankou/documents/h30kankouirikomi.pdf>

平成 30 年度外国人留学生在籍状況調査結果（JASSO）

https://www.jasso.go.jp/sp/about/statistics/intl_student_e/2018/index.html

付録 1. 前期配布資料

付録 2. 後期配布資料

前期インタビュー活動
 采访一个中国留学生或中国朋友

一、自我介绍
 你好！
 我叫……，是……，是……。我……岁。……年级。我的爱好……。
 我的汉语老师是……。
 请多关照。谢谢！

二、采访一个中国留学生或中国朋友

问题	回答
1. 他/她是谁？（姓名）	
2. 哪里人？	
3. 他的爱好是什么？	
4. 他学习什么？	
5. 最近怎么样？	
6. 他打工还是不打工？	
7. 他喜欢什么？	
8. 他做什么？	
9. 日本人怎么样？	
10. 金泽的天气怎么样？	

三、报告整理
 （レポートにまとめる）

- 你们好！我叫……。
- 昨天，我采访了……。
- 我来介绍一下我的朋友
- 他叫……，他是……。
- 他是我的……。
- 他是……国人
- 他很忙/累/
- 他……
- 他学习……
- 他最近……
- 他想去……
- 他想……
- 他喜欢……

後期インタビュー活動
 采访一个中国留学生或中国朋友

四、自我介绍
 你好！
 我叫……，是……，是……。我……岁。……年级。我的爱好……。
 我的汉语老师是……。
 请多关照。谢谢！

五、采访一个中国留学生或中国朋友

问题	回答
1. 他/她是谁？（姓名）	
2. 哪里人？	
3. 他的爱好是什么？	
4. 他学习什么？	
5. 最近怎么样？	
6. 他打工还是不打工？	
7. 他喜欢什么？	
8. 他做什么？	
9. 金泽的天气怎么样？	
10. 他住在金泽的哪个地方？	
11. 他住的地方离大学远不远？	
12. 他每天怎么来学校？坐年来还是骑自行车？	
13. 他住的地方生活方便不方便？附近有快餐店、便利店、大超市和银行吗？	
14. 他喜欢唱歌儿吗？喜欢流行歌儿吗？会唱日本歌儿吗？	
15. 他知道附近哪里有卡拉 OK 店吗？他常常去卡拉 OK 店唱歌儿吗？	
16. 他去过北京吗？去过长城吗？	
17. 不舒服的时候，他去医院看病还是在休息？	
18. 他来日本以后想家吗？	
19. 他常常上网吗？在网上跟家里人、跟朋友聊天儿吗？	
20. 他房间的厕所坏了，他自己修还是让谁来修？	
21. 他会包饺子吗？	
22. 他会做日本饭吗？他会做什么？	

